

プロジェクト名：マングローブ林再生・保全・管理計画調査

(調査期間：2002年6月～4.5ヵ月、担当業務：土壌・水質、GIS)

調査背景

オマーン国は3000km以上の海岸線を有し、かつてはマングローブ林が繁茂していたと考えられている。しかし、長期に渡り周辺住民が薪炭材のため伐採を行うとともに、家畜の過放牧に伴う食害によりマングローブ林の分布面積は減少した。現在ではその総面積はヒルギダマシ (*Avicenia marina*) が約1,100haと推計されている。マングローブ林は海岸浸食の防止、木材、薪炭材及び非木材林産物等の供給、水産資源の涵養、生物多様性の保全、観光資源として利用面からの重要な機能を果たしている。また、オマーンは1991年に策定した海岸域管理計画において、珊瑚礁とらんでマングローブ生態系の社会的、経済的重要性およびその脆弱性を指摘されており、特別な管理体制を取ることが計画された。国土の大半が沙漠であり淡水資源の乏しい同国は汽水域においても繁殖可能なマングローブ林の植生拡大と持続的利用は重要な課題となっており、その重要性から我が国は2000年よりマングローブ植林分野を担当する長期専門家を同国地方自治環境水資源省に派遣した。

調査概要

本調査の目的はマングローブ林の再生・保全・管理について自然環境および社会経済学的特徴に基づくマングローブ林候補サイト毎の計画、実施関係者の能力育成プログラム、住民に対する啓発プログラムからなるマスタープランを策定するものである。

担当事項

- マングローブ域の土壌・水質に係る現地調査及びデータ解析。
- マングローブ林に係る植生分布調査。
- マングローブ植生域における過放牧、不法投棄物による被害域調査。
- マングローブ植林対象域の推計及び分布解析。
- GIS解析によるマングローブ植生状況、土壌・水質などのデータベース作成。
- カウンターパートへの供与機材の分析指導。

